



RING!RING!
プロジェクト
競輪の補助事業

こちらに記載されている事業は、

競輪の補助金により実施した事業の一覧です。

平成 25 年度 公益財団法人日本自転車競技連盟 実施事業

〔(公財) J K A の補助金による「自転車競技の普及促進事業」により実施した事業です〕

補助事業番号：25-1-010

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

国民の心身の健全な発達に寄与するとともに、豊かな人間性を涵養することを目的とし、かつ、自転車競技の普及促進と競技登録者数の増加を図り、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

① 国内競技大会（全国大会）の開催運営

当連盟は、日本における自転車競技の統轄団体として、国内の主要な自転車競技大会の多くを主催している。特に、「全日本選手権」と銘打った大会については、全て当連盟の主催である必要があり、当連盟の公認なく、全日本選手権の名称を用いた大会があったとしても、公式な大会とはならず、記録も公式記録として扱われない。また、UCI の公式レースについても当連盟が取り扱い窓口である。

各種自転車競技大会を開催することによって、自転車競技に参加する機会を提供することは、自転車競技の普及振興に寄与するものであるほか、大会に参加しない多数の者にとっても、大会を観戦することによって自転車競技に対する興味・関心を深めることとなり、自転車競技の普及振興に資するものである。

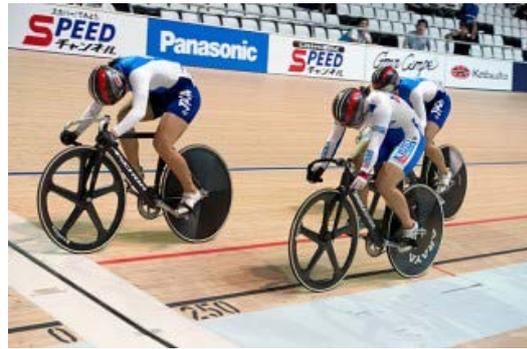
また、当連盟に加盟する地方車連等、他の組織が主催する自転車競技大会の開催を支援し、役員の派遣による大会運営の協力も行っている。さらに当連盟が公式な大会として認めるこれらの各大会において、選手が日本記録もしくは日本国際記録または世界記録を樹立した際、日本記録及び日本国際記録については当連盟がこれを公式記録として認定し、世界記録についてはUCI に公認を申請する。

また、以上の各競技を実施する前提となる競技規則を制定し、これを競技規則集として公表している。

本事業における活動は以下のとおりである。

ア. [全日本自転車競技選手権大会トラックレース](#)

(平成 25 年 7 月 27 日～28 日、静岡／伊豆ペロドローム、男子 91 名、女子 18 名)



イ. [第 82 回全日本自転車競技選手権大会ロードレース](#)

(平成 25 年 6 月 22 日～23 日、大分／大分、豊後大野、男子 344 名、女子 85 名)



※ [全日本ロードダイジェスト動画](#)

ウ. [2013 年全日本選手権個人タイム・トライアル・ロードレース](#)

(平成 25 年 6 月 9 日、秋田／大潟、男子 75 名、女子 22 名、パラ 20 名)



※ [リザルト](#)

エ. [第44回全日本室内自転車競技選手権大会](#)

(平成25年12月14日～15日、第44回全日本室内自転車競技選手権大会、男子56名、女子6名)



速報

- ・ [2013年12月14日](#) ・ [サイクルフィギュア男子](#)
- ・ [常勝木下・松田組敗れる](#)

オ. [第24回全日本マウンテンバイク選手権大会](#)

(平成25年7月19日～21日、静岡／日本CSC、男子202名、女子21名)



速報

- ・ [XC男子ジュニア](#) ・ [XC男子マスター](#)
- ・ [XC男子U23](#) ・ [XC男子エリート](#)
- ・ [DH女子予選](#) ・ [DH男子エリート予選](#)
- ・ [DH男子ジュニア](#) ・ [DH男子マスター](#)
- ・ [DH女子決勝](#) ・ [DH男子エリート決勝](#)

リザルト

- ・ [7月20日](#) ・ [7月21日](#)

カ. [第18回全日本シクロクロス選手権大会](#)

(平成25年12月8日、滋賀／マキノ高原、男子104名、女子15名)



速報

- ・ [2013年12月8日](#) ・ [2013年12月8日](#) ・ [2013年12月8日](#) ・ [全リザルト](#)

キ. [第30回 BMX 全日本選手権大会](#)

(平成 25 年 7 月 6 日～7 日、静岡／日本 CSC、男子 111 名、女子 32 名)



※ [BMX 全日本選手権は長迫吉拓が3連覇](#)

ク. [2013 年 JOC ジュニアオリンピックカップ自転車競技大会・2013 全日本オムニアム選手権大会](#) (平成 25 年 8 月 17 日～18 日、静岡／伊豆ペロドローム、男子 113 名、女子 19 名、オムニアム：男子 9 名、女子 3 名)

ケ. [全国都道府県対抗自転車競技大会](#)

(平成 25 年 8 月 25 日～27 日、長崎／壱岐、佐世保、男子 135 名、女子 35 名)

=====
補助事業番号：25-1-013

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

国際大会の頂点である世界選手権でのメダルの獲得を目指し、自転車競技の普及に寄与し、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

① 各種目の世界選手権大会に選手団を編成し派遣（日本を代表する自転車競技選手の強化及び国際的な自転車競技大会に対する選手の派遣に関する事業）

当連盟は、日本を代表して国際舞台で活躍する選手の強化育成を行うと共に、オリンピックやUCI主催の世界選手権等の著名な競技大会に選手を派遣し、日本自転車競技界の国際的な地位向上を図っている。

自転車競技の普及は日本より海外（特に欧州）が先進的であるが、日本人選手が国際大会に出場して好成績を挙げることによって、多くの国民が自転車競技に対する強い関心を持つことにつながり、自転車競技の普及振興に資することになる。

選手強化については、国内における公式競技大会での成績を基準に、専門委員会において強化指定を受ける選手を選考し、強化合宿を実施する。選手派遣については、選手を始め監督、メカニック、トレーナー、スポーツドクターらによるチームを構成し、世界選手権等の国際大会に選手派遣を行う。本事業における活動は以下のとおりである。

ア. [2014年トラック世界選手権大会](#)

(派遣期間：平成26年2月21日～3月5日、コロンビア・カリ、[選手9名](#)、[スタッフ9名](#))



※速報 ・ [2014年2月27日](#) ・ [2014年2月28日](#) ・ [2014年3月1日](#) ・ [2014年3月2日](#)
・ [2014年3月3日](#)

イ. [2013年ロード世界選手権大会](#)

(派遣期間：平成25年9月19日～10月1日、イタリア・フィレンツェ、[選手6名](#)、[スタッフ6名](#))



速報 ・ [2013年9月26日](#) ・ [2013年9月30日](#) ・ [2013年9月30日](#)

ウ. [2013年マウンテンバイク世界選手権大会](#)

(派遣期間：平成25年8月25日～9月2日、南アフリカ・ピーターマリッツバーグ、[選手10名](#)、[スタッフ3名](#))



速報

- ・ [2013年8月30日](#) ・ [2013年8月31日](#)
- ・ [2013年8月31日](#) ・ [2013年9月1日](#)
- ・ [2013年9月2日](#)

エ. [2013年BMX世界選手権大会](#)

(派遣期間: 平成25年7月20日~29日、ニュージーランド・オークランド、[選手4名、スタッフ6名](#))



[選手団](#)



[ガールズ14歳で日本勢がワンツーフィニッシュ](#)



[BMX世界選 庄司萌々と三輪和弘が準決勝進出](#)

[長迫吉拓がタイムトライアル18位](#)



[長迫吉拓がエリート男子7位の快挙](#)

オ. [2013年室内世界選手権大会](#)

(派遣期間: [平成25年11月16日~26日](#)、スイス・バイセル、[選手6名、スタッフ5名](#))



- ・ [2013年11月20日](#) ・ [2013年11月22日](#) ・ [大会1日目レポート](#) ・ [選手団結果報告](#)

カ. [2014年シクロクロス世界選手権自転車競技大会](#)

(派遣期間：平成26年1月23日～2月4日、オランダ・フーゲンハイド、[選手7名、スタッフ4名](#))



速報 ・ [2014年1月31日](#) ・ [2014年2月2日](#) ・ [2014年2月2日](#) ・ [2014年2月3日](#)

=====
補助事業番号：25-1-012

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

世界選手権出場枠獲得を目指し国際大会で優秀な成績を修め、自転車競技の普及に寄与し、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

① ナショナルチームを編成し、国際大会への選手団の派遣（日本を代表する自転車競技選手の強化及び国際的な自転車競技大会に対する選手の派遣に関する事業）

当連盟は、日本を代表して国際舞台で活躍する選手の強化育成を行うと共に、オリンピックやUCI主催の世界選手権等の著名な競技大会に選手を派遣し、日本自転車競技界の国際的な地位向上を図っている。

自転車競技の普及は日本より海外（特に欧州）が先進的であるが、日本人選手が国際大会に出場して好成績を挙げることによって、多くの国民が自転車競技に対する強い関心を持つことにつながり、自転車競技の普及振興に資することになる。

選手強化については、国内における公式競技大会での成績を基準に、専門委員会において強化指定を受ける選手を選考し、強化合宿を実施する。選手派遣については、選手を始め監督、メカニック、トレーナー、スポーツドクターらによるチームを構成し、世界選手権等の国際大会に選手派遣を行う。

本事業における活動は以下のとおりである。

ア. アジア自転車競技選手権大会派遣事業

(i) [2013年アジアMTB選手権自転車競技大会](#)

(派遣期間：平成25年5月6日～13日、中国・成都、[選手8名、スタッフ3名](#))



MTB アジア選手権大会速報

・ [2013年5月11日](#)

・ [2013年5月12日](#)

(ii) [2013年BMXアジア選手権大会](#)

(派遣期間：平成25年5月17日～20日、シンガポール・シンガポール、[選手11名・スタッフ2名](#))



・ [2013年5月20日](#)

イ. 国際大会選手派遣事業・ワールドカップ

(i) [2013-2014UCIトラック・ワールドカップ第1戦](#)

(派遣期間：[平成25年10月28日～11月5日](#)、イギリス・マンチェスター、[選手8名、スタッフ8名](#)) ※成績

(ii) [2013-2014UCIトラック・ワールドカップ第2戦](#)

(派遣期間：平成25年11月29日～12月9日、メキシコ・アグアスカリエンテス、[選手8名、スタッフ7名](#))

※速報 ・ [2013年12月5日](#) ・ [12月5日午後の部](#) ・ [12月5日夜の部](#) ・ [12月6日](#) ・ [12月7日](#)

(iii) [2013-2014UCIトラック・ワールドカップ第3戦](#)

(派遣期間：平成26年1月13日～21日、メキシコ・グアダラハラ、[選手8名、スタッフ7名](#))

※速報 ・ [2014年1月18日](#) ・ [2014年1月20日](#) ・ [2014年1月20日](#)

ウ. [日韓対抗学生自転車競技大会派遣事業](#)

(平成25年11月1日～4日、大韓民国)



リザルト

エ. 国際大会（クラス1，2，3）への派遣

(i) 2013トラック中国国際大会

(派遣期間：平成25年6月26日～平成25年7月1日、中国・北京、[選手8名](#)、[スタッフ9名](#))



競技結果等：[初日](#) [レポート](#)

(ii) 2013トラックオーストラリア国際大会

(派遣日程 平成25年7月8日～平成25年7月16日、オーストラリア・アデレード、[選手9名](#)、[スタッフ6名](#))



競技結果等：[レポート1](#) [レポート2](#) [レポート3](#)

(iii) 2013年トラックドイツ国際大会（コットバス・ナイト）

（派遣期間：平成25年8月20日～26日、ドイツ・コットバス、[選手5名](#)、[スタッフ4名](#)）

競技結果等：[ケイリン](#) [男子チームスプリント・スプリント](#)

(iv) 2013年トラックドイツ国際大会（スプリンター・ミーティング）

（派遣期間：平成25年8月26日～9月2日、ドイツ・デューデンホーヘン、[選手5名](#)、[スタッフ4名](#)）



競技結果等：[男子スプリント](#) [男子ケイリン](#)

=====

補助事業番号：25-1-008

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

全国的に、多様な年齢層、性別、初心者レベルから県選手権レベルに至るまで、横断的に自転車競技の普及促進を図り、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

① 各都道府県自転車競技連盟単位で競技大会を実施

ア. 全国地域別選手権（トラック種目）

第65回 [関東地域](#) 7/7 神奈川・平塚競輪場（男子60名 女子13名）

第45回 中部地域 9/8 愛知・一宮競輪場（男子63名 女子8名）

第45回 近畿地域 10/12.13 京都・向日町競輪場（男子116 女子3名）

第47回 中国地域 8/26 島根・大田自転車競技場（男子40名 女子3名）

第45回 四国地域 11/17 愛媛・松山市競輪場（男子44名 女子6名）

平成25年度九州地域 10/12～13 大分・別府競輪場（男子62名 女子6名）

イ. 全国地域別道路競走（ロード種目）

第45回 北海道地域 6/16 北海道・遠軽町（男子63名 女子3名）

第48回 [関東地域](#) 2/2 埼玉・さいたま市（男子179名 女子15名）

- 第 45 回 中 部地域 9/7 長野・下伊那郡（男子 25 名 女子 6 名）
- 第 48 回 近 畿地域 5/26 京都・美山町（男子 145 名 女子 11 名）
- 第 48 回 中 国地域 6/16 広島・中央森林公園（男子 107 名 女子 9 名）
- 第 38 回 四 国地域 11/4 香川・三豊市宝山湖（男子 37 名）
- 平成 25 年度九州地域 10/14 大分・平成森林公園（男子 56 名 女子 6 名）

ウ. 各都道府県別選手権

平成 25 年度は 27 都道府県車連において実施。

エ. 初心者教室

平成 25 年度は 16 都道府県車連において実施。

オ. 記録会

平成 25 年度は 22 都道府県車連において実施。

=====

補助事業番号：25-1-011

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

公営競技である「競輪」の組織を以って、国民の心身の健全な発達に寄与するとともに、豊かな人間性を涵養することを目的とし、かつ、自転車競技の普及促進と競技登録者数の増加を目的とし、もって、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

① 日本プロフェッショナルサイクリスト協会全プロ大会事業等の実施

ア. [第 60 回全日本プロ選手権自転車競技大会トラック・レース](#)

(平成 25 年 5 月 20 日、大阪・岸和田競輪場、男子 197 名)



コミュニケ

- ・ [No. 12](#) ・ [No. 13](#) ・ [No. 14](#) ・ [No. 15](#) ・ [No. 16](#)
- ・ [No. 17](#) ・ [No. 18](#) ・ [No. 19](#) ・ [No. 20](#) ・ [No. 21](#)
- ・ [No. 22](#) ・ [No. 23](#) ・ [No. 24](#) ・ [No. 26](#) ・ [No. 27](#)
- ・ [No. 28](#) ・ [全コミュニケ](#)

イ. [第 60 回全日本プロ選手権自転車競技大会 BMX](#)

(平成 25 年 5 月 18 日、大阪・サイクルピア岸和田、男子 40 名)



第 60 回全日本プロ選手権 BMX<速報>

・ [2013 年 5 月 18 日](#)

ウ. 地区プロ

- 第 40 回北日本地区 10/23 青森・青森競輪場 (男子 59 名)
- 第 40 回関東地区 10/22 群馬・グリーンロード前橋 (男子 108 名)
- 第 40 回南関東地区 10/23 神奈川・川崎競輪場 (男子 103 名)
- 第 41 回中部地区 11/20 愛知・豊橋競輪場 (男子 82 名)
- 第 36 回近畿地区 9/29 和歌山・和歌山競輪場 (男子 84 名)
- 第 40 回中国地区 11/23 広島・広島競輪場 (男子 59 名)
- 第 40 回四国地区 10/18 高知・高知競輪場 (男子 59 名)
- 第 40 回九州地区 10/23 大分・別府競輪場 (男子 112 名)

エ. 選手強化事業

オ. 国際競技大会事業

=====

補助事業番号：25-1-015

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

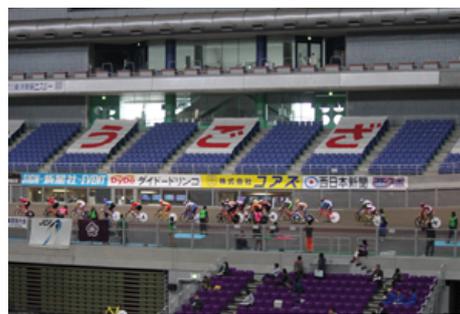
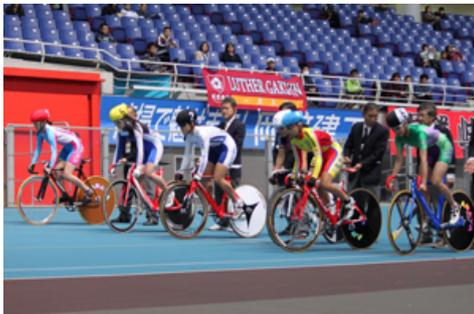
高校生競技者を育成強化することにより、自転車競技の普及促進を図り、もって、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

- ① [公益財団法人全国高等学校体育連盟自転車競技専門部事業の実施](#)

ア. [平成 25 年度全国高等学校選抜自転車競技大会 \(トラック種目\)](#)

(平成 26 年 3 月 20 日～22 日、福岡・北九州市メディアドーム、男子 260 名・女子 53 名)



※速報 ・ [2014年3月21日](#) ・ [2014年3月21日](#) ・ [2014年3月21日](#) ・ [2014年3月21日](#)
 ・ [2014年3月21日](#) ・ [2014年3月22日](#) ・ [2014年3月22日](#) ・ [2014年3月22日](#)
 ・ [2014年3月22日](#)

イ. [平成 25 年度全国高等学校選抜自転車競技大会（ロード種目）](#)

（平成 26 年 3 月 23 日、熊本・山鹿市、男子 181 名・女子 50 名）





※速報 ・ [2014年3月23日](#) ・ [2014年3月23日](#) ・ [2014年3月23日](#) ・ [2014年3月23日](#)

※レポート ・ [2014年3月26日](#)

ウ. 高校生競技者の基礎的競技力を育成するための全国合宿の実施

エ. チョンジュMBC自転車競技大会への派遣

=====

補助事業番号：25-1-017

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

学生自転車競技の競技力の一層の向上と競技大会運営能力の更なる向上とを図り、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

① [日本学生自転車競技連盟事業の実施](#)

ア. [第53回東日本学生選手権自転車競技大会](#)

(平成25年5月11日～12日、山梨・境川自転車競技場、193名)

イ. [第54回全日本学生選手権トラック自転車競技大会](#)

(平成25年6月29日～30日、静岡・日本サイクルスポーツセンター、240名)



ウ. [文部科学大臣杯第69回全日本大学対抗選手権自転車競技大会トラック](#)

(平成25年8月29日～9月1日、青森・八戸自転車競技場、220名)

エ. [文部科学大臣杯第69回全日本大学対抗選手権自転車競技大会ロード](#)

(平成25年9月2日、青森・階上町、194名)

オ. [第52回全日本学生選手権チーム・ロード・タイムトライアル大会](#)

(平成25年6月1日、埼玉・加須、羽生、104名)

カ. [第25回全日本学生個人ロード・タイム・トライアル自転車競技大会](#)

(平成25年6月2日、埼玉・加須、羽生、256名)

キ. [第49回全日本学生自転車競技新人戦東日本大会](#)

(平成25年10月6日、福島・泉崎国際サイクルスタジアム、73名)

=====

補助事業番号：25-1-006

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

強化指定選手を対象に合宿等により選手強化を行い、各年の国際大会で活躍することにより、自転車競技の普及を図り、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

① 強化指定選手を対象に選手強化合宿等の実施

日本を代表する自転車競技選手の強化及び国際的な自転車競技大会に対する選手の派遣に関する事業

当連盟は、日本を代表して国際舞台で活躍する[選手の強化育成](#)を行うと共に、オリンピックやUCI主催の世界選手権等の著名な競技大会に選手を派遣し、日本自転車競技界の国際的な地位向上を図っている。

自転車競技の普及は日本より海外（特に欧州）が先進的であるが、日本人選手が国際大会に出場して好成績を挙げることによって、多くの国民が自転車競技に対する強い関心を持つことにつながり、自転車競技の普及振興に資することになる。

選手強化については、国内における公式競技大会での成績を基準に、専門委員会において強化指定を受ける選手を選考し、強化合宿を実施する。選手派遣については、選手を始め監督、メカニック、トレーナー、スポーツドクターらによるチームを構成し、世界選手権等の国際大会に選手派遣を行う。本事業における活動は以下のとおりである。

ア. 平成 25 年におけるロードレース、トラックレース、マウンテンバイク及びBMXの選手強化を中心とした、各種自転車競技の強化合宿の実施状況は以下のとおり。

<トラック>

- ・ 5月3日～7日：[トラック女子中距離強化合宿](#)を静岡県・日本 CSC にて実施した。

参加人員 選手 男子0名 女子3名 スタッフ1名

※ジュニアトラック合宿並びにトラック男子中距離合宿と共催

- ・ 5月3日～7日：[トラック男子中距離強化合宿](#)を静岡県・日本 CSC にて実施した。

参加人員 選手 男子5名 女子0名 スタッフ1名

※ジュニアトラック合宿並びにトラック女子中距離合宿と共催 ※レポート：[3日目](#)



- ・ 6月14日～17日：トラック短距離強化合宿を静岡県・日本 CSC にて実施した。

参加人員 選手 男子8名 女子2名 スタッフ9名

- ・ 7月12日～15日：トラック女子中距離強化合宿を静岡県・日本 CSC にて実施した。

参加人員 選手 男子0名 女子1名 スタッフ1名※ジュニアトラック合宿並びにトラック男子中距離合宿と共催

- ・ 7月12日～15日：トラック男子中距離強化合宿を静岡県・日本 CSC にて実施した。

参加人員 選手 男子3名 女子0名 スタッフ1名※ジュニアトラック合宿並びにトラック女子中距離合宿と共催

- ・7月17日～18日：トラック短距離強化合宿を順天堂大学・JISSにて実施した。
参加人員 選手 男子3名 女子1名 スタッフ2名
- ・7月26日～28日：トラック強化合宿を静岡県・日本CSCにて実施した。
参加人員 選手 男子18名 女子9名 スタッフ11名
- ・8月4日～7日：トラック女子短距離強化合宿を静岡県・日本CSCにて実施した。
参加人員 選手 男子0名 女子9名 スタッフ5名
- ・8月11日～16日：トラック女子発掘合宿を静岡県・日本CSCにて実施した。
参加人員 選手 男子0名 女子18名 スタッフ8名
- ・10月11日～15日：トラック女子中距離強化合宿を静岡県・日本CSCにて実施した。
参加人員 選手 男子0名 女子1名 スタッフ1名※ジュニアトラック合宿と共催
- ・11月21日～25日：トラック女子中距離強化合宿を静岡県・日本CSCにて実施した。
参加人員 選手 男子0名 女子1名 スタッフ2名※ジュニアトラック合宿と共催
- ・12月14日～17日：トラック男子短距離強化合宿を静岡県・日本CSCにて実施した。
参加人員 選手 男子6名 女子0名 スタッフ4名
- ・12月14日～21日：トラック女子短距離強化合宿を静岡県・日本CSCにて実施した。
参加人員 選手 男子0名 女子6名 スタッフ3名
- ・2月16日～20日：トラック中距離強化合宿を静岡県・日本CSCにて実施した。
参加人員 選手 男子7名 女子3名 スタッフ6名
- ・3月12日～20日：トラック強化合宿を東京都・JISSにて実施した。
参加人員 選手 男子7名 女子4名 スタッフ5名

<ロード>

- ・5月18日～26日：ロード男子強化合宿を大阪・岐阜・長野・静岡・東京にて実施した。
参加人員 選手 男子6名 女子0名 スタッフ3名
- ・7月2日～5日：ロード強化合宿を東京・JISSにて実施した。
参加人員 選手 男子21名 女子0名 スタッフ4名
- ・10月18日～20日：ロード男子強化合宿を栃木県・宇都宮市にて実施した。
参加人員 選手 男子5名 女子0名 スタッフ3名
- ・12月1日～4日：ロード強化合宿を東京・JISSにて実施した。
参加人員 選手 男子20名 女子2名 スタッフ3名
- ・1月14日～19日：[ロード強化合宿](#)を埼玉県・森林公園にて実施した。
参加人員 選手 男子14名 女子5名 スタッフ3名



<BMX>

・12月21日～24日：強化合宿を静岡県・日本CSCにて実施した。

参加人員 選手 男子12名 女子4名 スタッフ7名

=====
補助事業番号：25-1-014

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

自転車競技のさらなる普及拡大のために、直接的な競技大会実施や強化事業のみならず、諸般の普及活動を行い、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

① 指導者ならびに審判員の養成・資格付与、各地における講習会等の開催、その他広報活動によって、自転車競技の普及振興を図る事業

当連盟では、自転車競技に関する様々な広報的活動を行っている。これらの活動は、単に自転車競技そのものの普及振興を図るのではなく、「健全な」自転車競技の普及振興を図るものである。すなわち、広報的活動による情報発信は、正しいルールに則った、健全なスポーツとしての自転車競技を広めるものである。ドーピング検査や指導者・審判員の講習・資格付与等の活動が本事業に含まれるのは、ルール遵守の意識を浸透させることも含めた広報的活動の側面を有しているためである。本事業における活動は以下のとおりである。

ア. 審判員の講習会の実施及び公認審判員の資格付与

当連盟では、公認審判員の資格を有する者については国内の主要な競技会における審判として参加することができる。日本各地で講習会や資格付与のための検定を行っている。

[第1級公認審判員（トラック&ロード）講習会](#)の受講料は5,000円。2級及び3級の講習会は加盟団体が実施する。

平成25年度における第1級公認審判員（トラック&ロード）の資格取得者数は4名、2級15名、3級358名。

イ. 自転車競技の普及・広報事業

(i) 公式ウェブサイト（ホームページ）における自転車競技各種情報の提供

競技大会の日程や参加要綱、結果の公開のほか、当連盟の沿革や概要、競技規則の公開など様々な情報発信をホームページ上で適宜行っている。

開催要綱や募集要項を掲載することにより広く参加機会を周知し、また、各競技大会の速報、競技状況を可能な限り速やかに掲載することにより、閲覧者における関心を高め、もって登録競技者拡大に努めている。

また、競技規則についてもUCIにおいて変更があった場合には、随時、変更内容を反映した競技規則を掲載し、健全なスポーツとしての情報発信の中心を担う役割を果たしている。

(ii) 登録者管理システムの運用

自転車競技の参加者に、安全管理や規則遵守の意識が求められるため、競技者のレベルに応じた内容で競技者登録をさせることによって、健全な自転車競技の普及振興を図る。また、登録者の増加それ自体が、自転車競技の裾野を広げ、普及振興に資する面も併せ持っている。

登録者管理システムにより、競技者登録を簡便化することにより、各競技大会への出場機会を容易にし、もって競技者登録の増加を図っている。

※ 登録者数の推移

平成 21 年度 : 5829 人

平成 22 年度 : 6059 人

平成 23 年度 : 6321 人

平成 24 年度 : 6517 人

平成 25 年度 : 6510 人

ウ. 広報誌の発行

広報誌「[シクリズム・エコー](#)」を定期的（年 6 回）に発行し、一般に頒布している。

発行部数 : 4000 部

発行日 : 4 月 17 日、[200 号](#) (4・5 月号)

6 月 26 日、[201 号](#) (6・7 月号)

9 月 17 日、[202 号](#) (8・9 月号)

11 月 11 日、[203 号](#) (10.11 月号)

12 月 19 日、[204 号](#) (12.1 月号)

3 月 20 日、[205 号](#) (2.3 月号)

主な配布先 JCF 維持会員・個別郵送希望者等 : 150 部

JCF 加盟団体・大会イベント等 : 3,250 部

自転車関係団体・施設・報道等 : 600 部

エ. 広報（宣伝、現地報道対応）の実施

平成 25 年度は全日本選手権の中でもトラックとロードについて、ウェブサイト上に特設ページ（[トラック](#) [ロード](#)）を設けて、より一層の情報発信に努めた。

また、各競技大会への取材要望に応え、広く報道してもらい、もってより多くの国民（受益者）が自転車競技のみならず、自転車に関わるルール・マナーを認識することにより、広義での自転車競技の普及振興を図っている。

オ. アンチ・ドーピング活動の実施

自転車競技会においてドーピング検査を実施し、参加者だけでなく自転車競技に携わる者の全てにアンチ・ドーピングの意識を広める活動。

また、このほかにも、広報活動の一環としてアンチ・ドーピング活動を行っている。

平成 25 年度にドーピング検査を実施した大会は以下のとおり。

- ・ 5/19-26 第 17 回ツアー・オブ・ジャパン（堺／美濃／南信州／富士山／伊豆／東京）
- ・ 5/19 MTB 八幡浜国際クロスカントリーレース（愛媛／八幡浜）
- ・ 5/20 第 60 回全日本プロ選手権自転車競技大会トラックレース（大阪／岸和田）
- ・ 5/30-6/2 TOUR de 熊野 2013（和歌山／熊野）
- ・ 6/9 第 17 回全日本選手権個人タイム・トライアル（秋田／大湯）
- ・ 6/9-10 第 29 回全日本学生選手権個人ロードレース大会（長野／木祖村）
- ・ 6/22-23 第 82 回全日本自転車競技選手権大会ロードレース（大分／大分・豊後大野）
- ・ 6/29-6/30 第 53 回全日本学生選手権トラック自転車競技大会（静岡／伊豆ペロドローム）
- ・ 7/6-7 第 30 回全日本 BMX 選手権大会（静岡／日本 CSC）
- ・ 7/20-21 第 26 回全日本 MTB 選手権大会（静岡／日本 CSC）
- ・ 7/27-28 第 82 回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース（静岡／伊豆ペロドローム）
- ・ 8/17-18 2013 オムニアム選手権大会（静岡／伊豆ペロドローム）
- ・ 8/29-9/1 第 69 回全日本大学対抗選手権自転車競技大会（青森／八戸・階上）
- ・ 9/14-16 ツール・ド・北海道 2013（道北～道央）
- ・ 9/22 第 47 回 JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ（群馬／群馬 CSC）
- ・ 9/22 第 2 回 JBCF 女子ロードチャンピオンシップ（群馬／群馬 CSC）
- ・ 10/20 2013 ジャパンカップサイクルロードレース（栃木／宇都宮）
- ・ 11/10 ツール・ド・おきなわ 2013（沖縄／北部地域）
- ・ 11/16-17 信州シクロクロス野辺山高原ラウンド 1、2（長野／南佐久）
- ・ 11/17 第 44 回 JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ（静岡／伊豆ペロドローム）
- ・ 11/17 2013 伊豆 BMX 国際（静岡／日本 CSC）
- ・ 11/24 関西シクロクロス野洲ラウンド（滋賀／野洲）
- ・ 12/8 第 19 回全日本シクロクロス選手権大会（滋賀／マキノ高原）
- ・ 12/14-15 第 44 回全日本室内自転車競技選手権大会（大阪／ボディメーカーコロシウム）
- ・ 1/24-26 ジャパントラックカップ 1、2（静岡／伊豆ペロドローム）

※ [JADA アウトリーチプログラム（8月17日、18日）](#)

.....

2. 予想される事業実施効果

(1) 国内競技大会（全国大会）の開催運営

本事業の実施により、登録者の練習成果の最高峰の場として、かつ予め定められた開催要項に基づき公正かつ安全な各種目の全日本選手権等を提供するとともに、海外派遣の選手選考の一助とすべく効率的な開催をすることにより、自転車競技の普及に寄与する。

特に全日本選手権は国内最高峰の大会であり、継続して開催することにより、自転車競技者をはじめ競技を志す方の目標となる大会である。

また、国内で国際競技大会を開催することにより、海外からのトップアスリートを呼び、高度かつ円熟したパフォーマンスを披露することにより、連盟登録者に対する刺激に加え、観客等一般の人達に対し競技の魅力を全国に発信することにより、自転車競技の普及促進を図る。

(2) 日本を代表する自転車競技選手の強化及び国際的な自転車競技大会に対する選手の派遣に関する事業（世界選手権大会派遣事業）

連盟の選手強化は、オリンピック、世界選手権大会を頂点とする国際大会で世界に伍して戦うため、優秀な指導者・スタッフの下、年間を通しての計画的・科学的なトレーニングが不可欠であるとともに、海外での国際大会の経験を重ねることが必要である。

そこで、世界の強豪が集う世界選手権自転車競技大会に出場し競走することは、それまでの強化訓練や国際大会での経験の集大成として、わが国がおかれた現状を把握する為に最も有効であり、メダルを獲得することが、競技者を始め自転車愛好者に対する普及拡大につながる。

(3) 日本を代表する自転車競技選手の強化及び国際的な自転車競技大会に対する選手の派遣に関する事業（世界選手権大会出場権獲得・ワールドカップ出場権獲得の為に海外派遣事業）

世界選手権自転車競技大会に出場するためには、ワールドカップにおいて出場枠獲得に必要なポイント（ワールドカップでの競走成績によって付与される）を獲得する必要があるが、これまで、各国のナショナルチームに対してほぼ無条件に付与されていたワールドカップへの出場権が、UCI公認の国際大会（カテゴリ：クラス3以上）に出場し獲得したポイントによって、出場枠を付与されることとなったことから、ワールドカップはもとより、大陸選手権大会やUCI公認国際大会への派遣とこれによるポイント獲得の重要性が増してきている。

今後、世界選手権、オリンピック出場へとつながる道筋として、本事業の重要性はより一層、大きくなるが、メダル獲得に向けて必要不可欠な派遣事業となっている。

(4) 都道府県自転車競技連盟事業

競技の底辺を支える全国47都道府県車連において、それぞれの地元の実情に合わせて計画した事業の実施を通じて、自転車競技の普及を図ることにより、1名でも多くの登録者の増加を目指す。

各地域においてより多くの初心者教室、記録会を行うことにより、自転車競技への関心を高め、また維持することを可能とする。

県別選手権、地域別選手権にあっては、都道府県の代表、地域の代表を定めるとともに、競技者として競技を行うことの意義を得られるとともに、全日本選手権への出場資格の一つとして、将来、国際大会において活躍しうる選手を創出する土壌となる。

(5) 日本プロフェッショナルサイクリスト協会事業

競輪選手を中心に特にトラック競技への参加を促すことにより、競技全体のレベルアップを図る。

(6) 公益財団法人全国高等学校体育連盟自転車競技専門部事業

将来の日本代表に育つであろう若手の育成を目的とするものであり、1名でも多くのエリート強化指定選手が生まれることを目指す。

わが国では自転車競技を開始する年齢として、高等学校における自転車部に入部する時期が多いことから、自転車競技者層の拡充を図る上で、重要な事業となっており、女子競技者の拡大を図る上でも、より一層の事業拡大が必要である。

(7) 日本学生自転車競技連盟事業

高体連事業と同様、将来の日本代表に育つであろう若手の育成を目的とするものであり、1名でも多くのエリート強化指定選手が生まれることを目指す。

高等学校からの自転車競技者の育成事業を途切れさせることなく、一環した強化を行ううえで、高体連事業と学連事業は一体化したものであると考えられ、強化指定選手をより多く輩出するための土壌となっていく。

(8) 選手強化事業

国内における公式競技大会での成績を基準に、専門委員会において強化指定を受ける選手を選考し、強化合宿を実施する。選手派遣については、選手を始め監督、メカニック、トレーナー、スポーツドクターらによるチームを構成し、世界選手権等の国際大会に選手派遣を行う。

選手が国際大会で好成績を収めるためには、選手強化事業は必要不可欠であり、国際大会への選手派遣事業とは対になっているものであり、リオデジャネイロオリンピック、さらには東京オリンピックに向けて、明確な姿勢を持って事業を実施することで広く国民の注目を得ることにより、自転車競技の普及振興に寄与していく。

(9) 普及拡大事業

全国自転車競技指導担当者研修会・審判員講習会の開催については、自転車競技の向上において、競技力及び審判技術の向上は欠かせないため、最新の情報収集を行う。

また、チャレンジサイクルロードレース等の大会においては、広い世代に競技の楽しさをアピールし、競技の普及と登録者拡大を目指す。

広報関係では一般の方やファン層に向けた宣伝や観客動員を意識しPR対策、メディアに対しても広報活動を実施していく。

これにより、今後も自転車競技の普及振興に寄与していく。

3. 本事業により作成した印刷物

- ・ [シクリズム・エコー](#)
- ・ [第82回全日本自転車競技選手権大会トラックレース](#)

他、加盟団体等実施の競技大会プログラム